

# 5 令和4年度学校評価

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月6日実施)	総合評価(3月16日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎学力の確実な定着を念頭に置き、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、自ら学習課題を発見し、解決できる能力を養う。	①小集団学習及び習熟度別学習の実施により自ら学習に向かう意欲と完結能力を養う。向学心を養うことを目的とした組織的な授業改善に自らの特性を反映する能力を養う。	①大テーマ「わかる・できるが実感できる授業を目指して」とし、各教科に小テーマを設定する。具体的な方策を考えて実践し、授業の改善に取り組む。 ①教員相互の授業見学、研究授業等を実施する。	①各教科でテーマに沿った取組と振り返りができた。 ①授業見学期間を2回設定できた。研究授業において「わかる・できるが実感できる授業」をテーマとし、教科会・全体会を実施し、指導主事や運営協議会委員のご指導もいただき、組織的に授業改善に取り組んだ。	①各教科でテーマに沿った取組と振り返りができた。 ①授業見学期間を2回設定できた。研究授業において「わかる・できるが実感できる授業」をテーマとし、教科会・全体会を実施し、指導主事や運営協議会委員のご指導もいただき、組織的に授業改善に取り組んだ。	①一人一台パソコンをもっと活用させたい。①生徒が主体的に感じ、行動する場の提供が大事である。より多くの体験的な教育を行うことを望む。	①大テーマと各教科の小テーマの設定と振り返りを行い、組織的な授業改善を推進できた。公開研究授業や授業見学が成果をあげた。より生徒が主体的に取組むような授業改善が必要である。	①テーマ設定および授業見学・研究授業を実施することにより、生徒の主体的で深い学びに繋がる更なる組織的な授業改善を進めていく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒の主体的な活動を支援する場として、部活動や学校行事の充実を図る。 ②生徒の主体的な活動を支援する場として、部活動や学校行事の充実を図る。	①「マナー日本一」の規範意識の充実により、社会におけるリーダーとしての素養を養う。 ②部活動の加入率の向上を推進し、部活動を通して主体性を育み、強靱な精神力を養うことにより、社会におけるリーダーとしての素養を身につける。 ③生徒会本部や委員会活動を活性化させ、生徒が自ら学校行事を検討・運営・改善して作り上げてゆく意欲を醸成する。	①授業開始・終了の挨拶を徹底する。制服をルールに則り着こなす。社会に貢献する。①高校生(社会人)として身につけるべき言葉遣いや立居振舞いの涵養を図り、公共のマナーを身につける。 ①いじめ相談窓口を生徒に周知し、相談しやすい雰囲気づくりをする。 ②文化祭・体育祭・球技大会・生徒総会・生徒会役員選挙等の行事を見直し、良いところは継続性を持って、生徒の主体的な創意工夫を促し、自尊感情や生徒相互の一体感を育てる。 ③全体の部活動加入率60%以上を維持しつつ運動部女子加入率の目標を30%とする。さらに教科活動と教科外活動のバランスの良い高校生活により、生徒の様々な取組の活性化を一層進める。	①授業への集中が高まり、円滑な授業を行うことができたか。 ①TPPOに合った言葉遣いや立ち居振舞いとして着こなすことができたか。 ①TPPOに合った態度や言葉遣いをしっかりとできたか。 ①いじめ相談の職員に気軽に話しかけられたか。 アンケートにしっかりと対応し、友人を救えたか。 ②体育祭、文化祭等の生徒会行事において、生徒の積極的に取り組む姿勢がみられたか。 ③委員会活動において生徒の主体的な活動がみられたか。 ④部活動加入率を達成できたか。 ⑤部活動の生徒が学校行事等へ主体的に協力することができたか。	①授業開始終了の挨拶が徹底し、落ち着いた雰囲気や授業が展開し、制服の着こなしも定着している。 ①TPPOに合った言葉遣いや立ち居振舞いに関しては、まだ課題のある生徒もいる。 ①いじめに関しては生徒も協力的であるため、早めに対応できている。 ②学校行事は生徒の意見を取り入れながら少しずつ変化のあるものに変化させていく。 ③部活動加入率は達成できなかったが、中学生との交流等工夫をしてさらにアピールする方法を模索する。 ④全体の部活動加入率は56%で目標達成はできなかったが、運動部女子33%で目標達成はできた。 ⑤体育祭では、部活動の生徒が準備や各係を責任もって行ってくれた。また、学校説明会等でも各部分担を決めて積極的に協力し活気のある学校としてアピールできた。	①今後も授業に落ち着いて取り組めるように生徒の自覚を高める指導を継続する。制服の着こなしへの意識も指導を続ける。 ①日常生活の中できめ細かく言葉遣いや態度を考えさせていく。 ①いじめを絶対に許さない姿勢を今後も学校全体で共有する。 ②学校行事は生徒の意見を取り入れながら少しずつ変化のあるものに変化させていく。 ③部活動加入率は達成できなかったが、中学生との交流等工夫をしてさらにアピールする方法を模索する。 ④中学校との部活動連携を活性化させるよう、中学生が高校生と一緒に活動できる方法の検討が必要である。	①「マナー日本一」の指導が徹底され、生徒は授業に意欲的に集中して取り組んでいる。さらなる主体的行動の育成が課題である。 ①教員やスクールメンターに相談しやすい環境を整えたことで、重大事態に発展しないよう細かな指導支援をすることができた。今後もきめ細やかな見守りと指導の継続が必要である。 ②学校行事では、制限がある中でも生徒は積極的に活動し、新しい取組もできた。主体性をさらに伸ばす取組が課題である。 ③部活動加入率を達成できなかった。中学生に入部をアピールする手立てを行い、さらに部活動を活性化させる必要がある。	①「マナー日本一」の指導を継続していく中で、主体性や規範意識を育成する。 ①いじめを絶対に許さない姿勢を今後も学校全体で共有する。 学校生活全般を通じてコミュニケーションに係る呼びかけを行い、周りへの感謝の気持ちと思いやりの心を育てる。 ②生徒会行事や委員会活動で生徒の主体的活動を促進する。 ③中学生との交流活動等を工夫し、部活動加入率を向上させる。
3	進路指導・支援	①キャリア諸能力の形成及び豊かな人間性の育成を図り、社会に貢献できる人材を育成する。	①「総合的な探究の時間」の3年間の系統的な授業展開を通じて、現代社会が抱える課題に目を向け、その解決に主体的に関わる姿勢を養う。 ①3年間を見通した系統的、組織的な指導・支援を行い、社会における自己の生き方を探求する。	①「総合的な探究の時間」における課題についてのレポートを作成し、発表をとおして、考えを深化させる。 ①職業理解講座、分野別説明会による職業観の深化を促す。 ①進路希望調査、進路ガイダンス、三者面談を計画的に実施し、生徒の将来設計の立案を促す。 ①3年間を見通した系統的、組織的な指導・支援を推進する。	①現代社会における諸問題に積極的に関わる姿勢が見られたか。 ①「総合的な探究の時間」において3年間を見通し、計画的に発表の場を設定できたか。 ①職業観を確立させることができたか。 ①将来設計の立案を促すことができたか。 ①3年間を見通した系統的、組織的な指導・支援となっていたか。	①「総合的な探究の時間」において社会問題を考察し、発表をする中で考えを深化させることができた。 ①職業理解講座、分野別説明会を実施し、職業観の深化を促した。 ①進路調査、進路ガイダンス、三者面談により、生徒の将来設計の立案を促すことができた。 ①3年間を見通した系統的、組織的な指導・支援ができた。	①「総合的な探究の時間」の充実を求める。さらに全ての教科、シチズンシップ教育についても主体的・深い学びを行っている必要がある。 ①来年度は、一般受験に向けた指導にも注力したい。	①現代社会の諸問題への関心が高まっているので、職業観の確立と繋げたい。 将来設計を促す説明会等を計画し実行できたが、早い時期から卒業後を見通す意識を高めさせる必要がある。	①各学年の取組で「目標の明確化、意識化」「振り返り、見直し」を行った。職業観や将来設計への意識を向上させる。 ①社会状況への理解と職業観の育成を繋げた講座や説明会等を活用して進路意識を高めさせる。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月6日実施)	総合評価 (3月16日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
4	地域等との協働	①豊かな人間性、社会性を育み、生徒が有る感、自尊感情を実感でき、地域に信頼される学校づくりを目指す。	①田名地域の特性を踏まえたコミュニティ・スクールを整備・構築し、地域に信頼される学校づくりを行う。また地域連携活動の工夫、参加規模を拡大・充実させることにより、生徒の地域社会への参画力を身につける。	①安心・安全な「地域連携活動」等を検討し、実施する。 ①生徒の「地域貢献活動」等の参加やPTA主催の「キウイ収穫祭」の参加を推進する。 ①「公開授業」等で生徒の活動を地域に発信する。 ①地域の社会福祉施設や公民館、近隣小学校との交流行事を行う。	①安心・安全な「地域連携活動」等を検討、実施できたか。 ①「地域貢献活動」や「キウイ収穫祭」は安心・安全に配慮しながら工夫して実施できたか。 ①「公開授業」等で生徒の活動を地域に発信したか。 ①地域の社会福祉施設や公民館、近隣小学校との交流行事を実施したか。	①感染症対策や開催の工夫をして安心・安全な地域連携活動が実施できた。 ①地域連携活動は地域やPTAと連携して実施する予定であったが、雨天で延期となり1学年生徒のみの実施となった。キウイ収穫祭は感染症対策や来賓の縮小等をして開催できた。 ①公開授業は学校運営協議員や保護者に生徒の活動を発信することができた。 ①部活動や同好会、委員会の生徒が地域の社会福祉施設や公民館にて交流の実施ができた。	①地域連携活動等の開催方法を更に検討して多くの地域の方々と連携できるよう工夫したい。 ①公開授業の参加人数が少なかつたので、実施方法を検討したい。また開催時期を検討する。 ①地域の交流等が特定の部活動や同好会、委員会となっているため、多くの生徒が参加できるよう検討する。	①各グループの取組が評価されて「キャリア教育優良校」表彰に繋がったことは評価できる。 ①地域共生社会の実現が叫ばれている中、若い世代が地域との関わりを多く持っている。地域連携プロジェクトや普段からの取組を今後も大切にしていきたい。 ①コロナ禍で先輩からの引継ぎが薄く、発表の質が下がっていいことは評価できる。より内容の向上を期待したい。	①地域連携・地域貢献の新規取組ができたが、コロナ禍で取組回数や参加者数が減少してしまっただけで、状況が踏まえながら安心・安全な方法を工夫して、地域連携・地域貢献を活性化させる。 ①学校説明会は開催できたが、情報発信の方法をさらに工夫することが課題である。ラウンジ展を開催できたが、開催方法を検討する必要がある。	①小・中学校や大学、地域との連携を強化し、コロナ禍での開催方法を工夫し、地域連携や地域貢献の新しい取組を行う。 ①地域連携の取組についての情報発信回数を増やす。
5	学校管理 学校運営	①安全、安心な学校生活の中で、自己と他者を守る行動のできる力を育成する。  ②事故・不祥事ゼロの実現に向け、教職員が一丸となって、風通しの良い職場環境を醸成する。  ③働きかた改革を推進するために教員の意識改革を図る。	①防災に関する様々な研修・訓練を実施することで、生徒が「災害は身近に存在するもの」という意識を醸成する。 ①D I G研修や防災避難訓練を実施することで災害対応力を向上するとともに責任のある社会的な行動がとれる力を育てる。 ②研修や不祥事防止会議を計画的に活用し、情報の共有を徹底し、事故不祥事防止の成果を生徒に還元する。 ②成績処理や指定校推薦の確実な業務遂行に努め、生徒・保護者の信頼を得る。 ②入学者選抜業務の校内システムの精度を上げ、確実な業務遂行に努める。	①大規模災害発生に備え、生徒・職員対象のD I G研修を実施する。 ①防災帰宅班の確認や防災避難訓練を実施する。 ①東日本大震災の記憶を風化させないためにシエイクアウトを実施する。  ②研修や不祥事防止会議を計画的に実施し、職員間の情報共有や事故不祥事防止に関する意識の醸成を図る。 ②成績処理、指定校推薦業務を確実に遂行する。 ②入学者選抜の要項及び研修会の充実を図る。	①生徒・職員対象のD I G研修を実施したか。 ①防災帰宅班の確認や防災避難訓練を実施したか。 ①シエイクアウトを実施したか。  ②研修や不祥事防止会議を計画的に実施できたか、事故不祥事ゼロを達成できたか。 ②成績処理、指定校推薦業務を確実に遂行できたか。 ②入学者選抜業務を確実に遂行できたか。	①地域の防災協会と連携して地域の防災イニシアチブが主体となり、生徒対象のD I G研修を実施した。 ①防災帰宅班の確認、防災避難訓練を実施した。防災避難訓練は通常の学習活動を想定して実施した。 ①シエイクアウトを実施した。  ②不祥事防止研修は講師をお招きして1回、その他毎月行った。不祥事防止会議も月1〜2回計画的に実施できた。事故不祥事ゼロを達成できた。 ②成績処理、指定校推薦は、複数で繰り返し点検を行い、確実に遂行できた。 ②入学者選抜は、確実に遂行している。	①生徒対象のD I G研修の内容をさらに検討して生徒の知識が深まるよう改善する。 ①防災避難訓練では生徒への防災の意識が高まるよう事前指導等をして改善する。  ②不祥事防止研修は、各グループが輪番で講師を務め、自分のこととして考えられるものになってきた。来年度以降も続けたい。 ②成績処理や指定校推薦は、点検方法を検証し、さらに効率よく事故なく業務を進めたい。 ②入学者選抜の方式が変更されるので、要項や校内システムを見直す。	①地域と連携した防災も考えていくべきだ。  ②事故不祥事防止の意識は向上したが、成績処理の点検方法をさらに工夫したい。	①コロナ禍でも防災研修や避難訓練が行えたことが良かった。また、新しい方式での生徒D I G研修も効果があがったが、さらに新しい方法や形式を取り入れ、生徒や教職員の防災意識を高める必要がある。  ②不祥事防止会議の内容の検討を行い、事故不祥事の未然防止に努める。 ②成績処理の点検方法を再検討する。 ②入学者選抜の要項や校内システムを見直す。	

## 6 令和5年度学校運営協議会委員

赤間 源太郎	社会福祉法人相模福祉村理事長
井上 武仁	相模原市立田名中学校長
大谷 政道	田名公民館長
木下 國博	田名地区青少年健全育成協議会会長
岡部 恵美	相模田名高等学校PTA会長
代田 修	田名地区自治会連合会会長
村上 聡	神奈川工科大学経営管理本部企画入学課高大連携支援室室長
平田 智則	相模田名高等学校長